

---

# 水鏡のデュエリスト

ミクシエ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

水鏡のデュエリスト

### 【Nコード】

N1686Z

### 【作者名】

ミクシエ

### 【あらすじ】

デュエルアカデミアに入学した記憶を失った一人の少女の物語彼女はそこで何を学び、何を知るのだろうか・・・  
一人の少女が遊戯王GXの世界に入り込み始まるIfの物語

## 第1話 それは彼女の物語（前書き）

デュエルアカデミアに入学した記憶を失った一人の少女の物語彼女はそこで何を学び、何を知るのだろうか・・・

一人の少女が遊戯王GXの世界に入り込み始まるIfの物語

主人公がシンクロを使うのでちょっとした枷を一つ

主人公は2つのデッキでシンクロを使用しますが二つのデッキで合わせて同名のカードなしの合計15枚のエクストラデッキしか使用しません、そのためエクシーズは今のところ使う予定はないです（敵として出すオリキャラが使うかも）

## 第1話 それは彼女の物語

私がこの世界に来た時のことはよく覚えていない

ただ周りの景色が少し大きく見え、どう見てもぶかぶかでサイズの合っていないどこかで見たことのある

機械が左腕に引っ掛かっていたくらいだろうか。

周りを見回してもどこかで見たことがありそうしかし同時に見たことのない街の風景、

日はまだ高く人々が目の前に道を歩く風景

そして私は目の前の光景にただただ怖くなりそのままどこかへと走り出したことは覚えている。

どのくらい走ったのだろうか、

この小さな体でどれだけ走ったのかもさえ覚えていない。

足がもつれつまずいて倒れてしまうまで走り続けていた、

倒れた私の前には機械にセットされていたカードと

腰にぶら下げていたケースの中のカードが散らばっており

今いる場所がどこかの小さな公園のような場所だった。

とりあえず地面にばらまいてしまったカードを集めていた

私はふと何かを思い出したように手の中にあるカードの束と目の前に置いた機械を交互に見つめた。

「そういえばこの機械は……」

つまずいて倒れた時に衝撃で電源が入ったのかその機械は起動しているようだった

手の中にあるカードの束の中からおもむろに1枚のカードを取り出し

その機械に近づきカードをセットすると

目の前に幻想が広がった

目の前に現れた幻想に私は次々とカードを入れ替えながら見入っていた、

中には機械が反応せずにERRORとだけ出るカードもあったが私は気にせずに次々とカードを変えていった

そして最後の1枚をセットした時に彼らが現れた。

全員が全身黒ずくめで黒のサングラスという怪しい男たちだったために

びっくりした私は立ち上がり駆け出そうとしたが腕を掴まれ囲まれていた、

それに入入り口にはすでに黒ずくめの男たちが立っていたために腕を振り払い逃げだすことも

できなかった。

その男たちに私はこれまた黒塗りの車に乗せられどこかへと連れて行かれた。

その時の私はこれからどうなるかという不安で生きた心地がしなかったのは覚えてる

それから私を乗せた車はどこかの建物の中に入って行った。  
車から降ろされた私の周りを黒服の男たちが囲みその建物の一室へと連れていかれた。

大きな窓にテーブルとイスそれとベットが1つそれだけがある部

屋だった。

持っていた荷物はすべてとられこの部屋に一人閉じ込められた私はあまりの恐怖で泣き出してしまった、

誰かが私を起こそうとしている、どうやら私は泣き疲れて眠っていたようだ。

眠い目をこすると眼の周りが少し痛い  
私を起こしていたのは私をここに連れてきた黒服の一人と高そうな背広を着た青年がいた、

青年は黒服の男に

「磯野こいつが例の未登録のデュエルディスクでサーバーにアクセスしていたやつか？」

「はい、その上謎のカードも数枚保持しておりました為に確保し連れてまいりました」

どうやらあの青年は黒服たちの上司に当たる人物みたい

「おいおまえ、あのデュエルディスクをどこで手に入れ、なぜデュエルシステムのメインサーバーに

アクセスしようとした」

青年は強い口調で私にそう聞いてきた。

「それと海馬コーポレーションのメインサーバーのデータに存在していないカードは

どこで手に入れた、こたえろ」

どうやら私が持っていたカードと機械（この時はまだ持っていた機械がデュエルディスクとは知らなかった）の出所を聞き出そうと  
していた。

「カードは私のです、デュエルディスクは……分かりません……」

……

その時の涙目になり上擦った私の答えは彼らの質問の答えにはな  
ってはいなかったが、

「まあいい、このことは後からでも確認はできる。おい、おまえ名前は何て言うんだ。」

とりあえずおまえの両親に電話して迎えに来てもらってから  
その問いに対して私は

「私の名前は……………」

これが私がただ長谷部瑞姫の遊戯王の世界で私としてこれから生きていく始まり  
だった……………」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1686z/>

---

水鏡のデュエリスト

2011年12月5日23時45分発行